

北の志づめ

第226号

令和6年6月



例祭奉納行事「古式大的式」

開拓の群像

樺太奥地の開拓に挑む 早川弥五左衛門 合田 一道氏

円山地域の生物

野鳥観察の事始め 円山に夏鳥たちがやって来る

北海道大学大学院理学研究院
教授 高木 昌興氏

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



北の志づめ 第226号 令和6年6月1日発行

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474 電話／011-611-0261 FAX／011-611-0264 北海道神宮社務所

当神宮は、開拓期に全国各地より入植された人々の心の拠り所であり、「札幌まつり」は、各地域の人々の心を結ぶ祭礼でもありました。明治十一年、神輿・基が市中を御神幸され、これが例祭に於ける神輿渡御の始まりですが、当時の札幌市民の熱望により恒例となり、その運営には札幌の市民たちも携わるようになりました。こうして札幌まつりは、市民の祭りとして親しまれるようになりましたが、先人たちの情熱とご苦労により札幌の街は発展を続け、それに伴い、札幌まつりの規模も次第に大きくなってゆきました。やがて札幌まつりの運営の為に祭典区が形成されましたが、各祭典区は、持ち回りにより、その年の年番となり、現在に至るまで、札幌まつりの諸事切を担って頂いております。令和六年は、当神宮のお膝元であります第十八円山祭典区が年番を、山車年番は、第二十琴似祭典区にご奉仕頂きます。

「明治天皇御増祀六十年」の佳き年にあたり
本年の例祭、神輿渡御が、例年にも増して賑々
しく盛大に恙なく執り行われますよう、現在、
年番をはじめ各祭典区、またご関係各位と綿密
な打ち合わせと準備を、鋭意執り進めている処
でございます。

「崇敬の皆様におかれましては、本年の「札幌まつり」につきましても、格別のご高配とお力添えを頂きますようお願い申し上げます、ご挨拶と致します。」

三上恒

昨年十月十七日に齋行されました神嘗奉
祝祭並びに年番引継式において、間島宮司様
より敬神講社旗をお預かりし、第十六桑園祭
典区様より年番の引継ぎを受けて以来、北海
道神宮神職様を始め、各関係諸団体の方々
の薫陶あるご教導と大変温かいご協力を賜り、
諸準備を進めて参りました。

円山地区は、明治三年に酒田県、現在の山形県庄内地方）から三十戸九十名が入植したのはじまりでした。当初は入植した年の干支から庚午（こうご）三の村（庚午二の村は苗穂村、庚午二の村は丘珠村）と呼称されておりましたが、翌明治四年には当時の開拓判官岩村通俊が円山村と命名しました。これは先んじて行っていた札幌神社（現北海道神宮）を造営する為の予定地の測量にあたり、この宮地を京都の円山に因んで同じく円山と名付けていた為、その宮地の麓にある村ということから命名されたといわれております。

当時の円山は、南側は石の多い野原、北側は湿地帯の低地であつた為開墾は相当の苦勞が

あつたようです。そのような環境ではありましたが、明治の中頃には蔬菜農家が増え札幌市民への二大供給地として発展していきまし。その後も、札幌市民の人口増加と共に、その隣接地として交通の利便性もあり人口が急増していき、昭和十三年に町制施行、昭和十六年には札幌市と合併することとなりました。この頃から、農業の村から札幌のベッドタウンへと変遷していき、平成以降にはマンションが林立し昔の円山村が懐かしくなる程の発展を遂げて参りました。

さて、今年で二四三回を迎える神輿渡御ですが、本年は明治天皇が北海道神宮に御増祀されてより六十年という特別な年の奉仕となります。我々円山祭典区は明治天皇御増祀四十年の年にもご奉仕をさせていただいており、このようなご縁をいただけたことは大変光栄なこととありがたく存じます。

この佳き年の札幌まつりが一層盛大且つ厳粛なものとなるよう、祭典区役員を始め地域住民の皆様と全力を挙げてご奉仕いたす所存です。各祭典区の皆様並びに関係者諸団体の皆様のご指導とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

[illegible]

※状況により順路などが変更となる場合がございます。

15日㊦ 例祭 午前10時／本殿								14日㊤ 宵宮祭 午後6時／本殿									
チニハロ演奏	人形浄瑠璃	フークたてまつり	福井ばやし	雅楽	神宮の森コンサート	相模甚句	三条神楽	ハブ演奏	古武道演武	空手演武	能楽	ヒーロー和芸ショー	古式大格式	行事名	時刻	奉納団体	場所
19:15 ～ 20:00	18:30 ～ 19:00	18:00 ～ 20:00	18:00 ～ 18:30	17:00 ～ 18:00	17:00 ～ 17:30	15:30 ～ 16:00	15:30 ～ 16:30	14:30 ～ 15:00	13:40 ～ 15:20	13:00 ～ 14:00	12:00 ～ 13:30	11:30 ～ 12:30	11:00 ～ 12:00	吉沢コンサート	20:00 ～ 21:00	表千家同門会	西園庵控前
明楽みゆき	さっぽろ人形浄瑠璃あしり座	三角山放送局	札幌福井ばやし保存会	北海道神宮職員他	宮の森小学校スクールバンド	札幌相模甚句会	北海道神宮舞樂会	ラムブルハーバンサンブル	北海道古武道協会	NPO法人日本空手道振興会	札幌能楽会	道産子ヒーロー「舞神ソーランドラゴン」	札幌弓道連盟	新川皇大神社北響太鼓	19:25 ～ 20:25	札幌支部	西園庵控前
														平岸天神ソールン踊り保存会	19:10 ～ 19:25		
														都山流尺八献笛	16:10 ～ 16:40		
														三條神楽	15:00 ～ 16:00		
														和太鼓演奏	16:00 ～ 16:30		
														日本舞踊	15:00 ～ 15:30		
														朗読フルメタ短編小説	14:00 ～ 14:30		
														吟詠	13:00 ～ 14:30		
														チンドン屋	13:00 ～ 13:30		
														櫻川流江戸芸かぼれ	12:20 ～ 12:50		
														ひつとこ踊り	11:40 ～ 12:10		
														古典アラダスカヒコ	11:00 ～ 12:00		
														野点	10:00 ～ 16:00		

※奉納行事の予定は、予告なしに中止もしくは変更になる場合がございますが、ご了承ください。
※終日混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。※15日の野点は中止となります。

樺太奥地の開拓に挑む 早川弥五左衛門



早川弥五左衛門

赤蝦夷とは樺太に南下してきたロシア人が、狸々^{しやじやうひ}緋の衣服を着ており、それを見たアイヌ民族が「フレー・シャモ」（赤い隣人）と呼んだことによるものといわれています。

意見書には、ロシアの南下政策をこのまま放置しておけば、樺太のアイヌ民族はやがてロシアに蹂躪されてしまう恐れがあるとして、鎖国政策よりもアイヌ民族との交易を進めるべきと主張しています。

幕府は急ぎ探検隊を派遣させ、寛政三年（二七九二）、松前藩士らによる調査復命書「唐太嶋見分書」を受けると、蝦夷地を松前藩から召し上げて直轄経営にします。

文化五年（一八〇八）には幕府調役下役、松田伝十郎、同雇の間宮林蔵による「樺太調査報告書」をもとに、越前国の大野藩などに樺太と蝦夷地の開発と



復元された大野丸＝福井県大野町

経営を命じました。

大野藩は越前と美濃を結ぶ交通の要衝にあり、町並みは「小京都」とうたわれるほどでしたが、禄高四万石なのに、実質は一万石余りの貧しい藩でした。それだけにこの命令に藩内はキモを

北蝦夷地と呼ばれた樺太が世間の耳目を集めたしたのは天明四年（二七八四）、仙台藩医師の工藤平助が幕府老中、田沼意次^{たぬまおきつぐ}に提出した意見書「赤蝦夷^{あかえぞ}風説考^{ふうせつこう}」によるところが大きいとされます。



早川弥五左衛門が指揮した精技隊の旗

潰すほど驚きました。

探検隊長を命じられた内山隆佐は蝦夷地へ、樺太の元会所詰頭に任ぜられた藩士の早川弥五左衛門は樺太へ、藩士や領民を藩船大野丸に乗せて現地へ向かいました。まさに決死の覚悟でした。

樺太に着いた早川は、精技隊を組織してロシア側の複雑な動きに目を光らせながら、漁場の開発に意を注ぎました。だが北緯四八度の越冬期は想像を絶する寒さでした。しかも運動不足も影響して早川を含む多くの藩士や領民らが、浮腫病に冒され、逼迫した状態に陥りました。その一方で案じられていた

ロシア人との摩擦が目立って激しくなりました。

財政危機にも迫られ、幕府から三千両の貸し付けを受けるなど、手厚い援助を受けましたが、そんな最中に、大きな大野丸を根室沖で沈没させるという不遇にぶつかります。しかも早川に対して帰藩命令が下り、樺太開拓の事業は頓挫してしまうのです。

早川は悔し涙にくれながら、次の詩歌を詠みます。

ただ
 壺に荒原のまだ拓開せざるのみならず
 憂心別に一番の催す有り
 北門の鎖鑰^{さやく}曾つて成無し^{なむ}

即ち是れ狄人境を侵して来る^{てきしん}

幕命である北門の鎖鑰にもなれず、狄人、すなわちロシア人の越境を止められない非力を詠んだこの詩歌は、武人の悔しさを吐露して余りあるものを感じます。

こうして大野藩による樺太開拓は、失敗に終わりますが、早川らの努力は後々の開拓に引き継がれていくのです。

◆プロフィール◆

昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場―北の歴史を彩る』『大君の刀』など。

円山に夏鳥たちがやって来る

北海道大学大学院理学研究院

教授 高木 昌興

第二回目にご紹介したカラ類五種は観察できたでしょうか。できなかった方も大丈夫です。これからの時期は囀りこそ少なくなりますが、子育ての餌運びに奔走する親鳥の姿を頻繁に目にするようになります。鳥にとつては美味しい栄養たっぷりのイモムシを運びます。さて、この季節、円山を遠目にみると赤く色づいている樹々を見ることが出来ます。円山を代表するカツラの芽吹きです。足元にも注意してください。キバナノアマナ、ニリンソウ、エゾエンゴサクなど春の妖精植物も楽しむことが出来ます。そしてアカイタヤ、シナノキ、オヒヨウなど様々な樹種が萌え出る時期です。少し遅れてヤチダモの葉が開くと春爛漫となります。活気付いた円山にさらに彩りを添えるのが美しい声で囀る夏鳥です。

第二回目の鳥たちの紹介の前に円山の鳥たちを季節的な移動から区分して整理しておきます。前回のカラ類は一年を通して円山に生息している留鳥です。カラ類の他にはカラス類、スズメ、キツツキ類などです。五月に入ると繁殖のために東南アジアなど日本より南の地域で冬を越した鳥たちが円山に渡ってきます。それらが夏鳥です。夏鳥は遠くから渡ってくる鳥ですが、国内で冬を越して繁殖のために円山を訪れる鳥もいます。一般には漂鳥と呼ばれますが、円山では夏鳥とも言えます。円山を代表する種としては、キジバト、アオジなどです。北海道よりも北の地域、シベリアなどで春から夏に繁殖し、冬の餌や住処を求めて北海道に移動して来る鳥は冬鳥です。円山では観察できませんがハクチョウ類やガン類がよく知られています。円山には多くの冬鳥の小鳥が渡ってきます。マヒワやレンジャク類などです。カケスも広域的には漂鳥となりますが、円山は冬の生息場所なので冬鳥です。もう一つの区分は旅鳥です。春と秋に北海道を通過する鳥です。北海道より北の地域で繁殖し、遠くはオーストラリアやニュージール

ドで冬を過ごします。シギやチドリが有名ですが円山では見られません。円山の旅鳥にはツグミ類が多く、野鳥観察のマニア垂涎の珍しい鳥、ムギマキ、ワキアカツグミなどが含まれます。さて今回は夏鳥を紹介します。雪が少し残る五月上旬、虫が鳴き出すにはまだ早い時期です。しかしササ藪から「シシシシシ……」という虫のような声が聞こえます。藪の中を探しても姿を捉えることは難しく、ますます虫ではないかと疑いが出てきます。しかし、それはヤブサメというウグイスに似た鳥の囀りです。雌雄共に全身が茶色、目の上に黒い線が二本という非常に地味な見た目です。ササ藪の



【写真1】 キビタキ 全長13.5cm

地上に巣を作り、つがいの雌雄で子育てをしますが、お手伝いさんが雛たちに餌を与えることもあります。他の多くの鳥が朝によく囀るのに対し、ヤブサメは夜中じゅう囀ることがあります。まだお手伝いさんの役割や夜中に囀る理由は明らかになつておらず、謎の多い鳥です。

黒い背に白い線、橙色味のある黄色の喉に黄色い眉と腰、腹は白色でそれぞれの色の輪郭が明瞭で美しい鳥がいます。キビタキです（写真1）。「ホイッヒーピッ」のような複雑な囀りですが鳴き声の終わりに「チョットコイ」と聞こえる場合があるので聞き分けることが出来ると思います。メスは目立たない褐色です。円山にはウグイスではない鶯色の夏鳥



【写真2】 メジロ 全長12cm



【写真3】 美しいオシドリのおス 全長45cm

二種が繁殖しています。一つはセンダイムシクイです。その囀りは昔から「焼酎一杯グイー」と聞こえることで有名です。地上から高い葉の茂った枝で、嘴を斜め上に向けて囀っています。もう一種はメジロで（写真2）、囀りは「長兵衛・忠兵衛・長忠兵衛」と聞こえます。センダイムシクイとメジロは雌雄同色です。

公園の池にはオシドリがいます。オスがド派手なカモの仲間（写真3）、メスは褐色で地味ですが白い斑が目立ちます。オシドリは大きな樹にできた洞が巣で、メスだけが卵を温めます。孵化すると直ぐにひと揃いの雛は地上に飛び降ります。巣の洞までの地上から

の高さが二〇メートルもあることがありますが。綿羽に包まれた体重が軽い体、まだ羽が伸びていない翼と脚を大きく開くことで無事に地上に降り立ちます。メス親は地上に降りた雛を引き連れて池に向かいます。池に向かう時が一番危険な時です。ハシブトガラスは人の弁当も狙っていますが、オシドリのヒナも格好の餌食となります（写真4）。池に到着すれば二安心、孵化して直ぐの雛ですが水に浮かぶことができます。

気持ちの良い春の円山を樹々と草花と夏鳥で満喫しましょう。



【写真4】 草むらに身を潜めるオシドリの子ナ



午前の部

入学祭
三月二十四日(日)、第四十一回入学祭が午前十一時と午後二時に斎行されました。札幌市内全区より百三十八名ものお申し込みがあり、拝殿は色とりどりのランドセルを背負う新入学児童とそれを見守る保護者の皆様で埋め尽くされました。コロナ禍により中止が続いていたため、四年ぶりの祭典となりました。

入学祭

社頭風景

三月／五月

開拓神社杯 軟式少年野球大会 開会式



選手宣誓

ました。

開会式では、星野尚夫大会長の挨拶の後、昨年優勝、準優勝の各チームより旗とカップが返還されました。その後、佐藤秀雄実行委員長より大会運営についての説明があり、ニュースターズのキャプテン井波友梨葉さんから元気の良い選手宣誓がありました。総勢二十チームにより四ブロックリー

四月二十一日(日)午後五時三十分に、明治天皇御増祀六十年記念第三十七回北海道神宮開拓神社杯軟式少年野球大会の安全祈願祭並びに開会式が北海道神宮拝殿にて行われ



大会長挨拶

グ戦を行い、それに勝った四チームで決勝トーナメントが行われることとなります。決勝戦は七月二十六日(金)に太陽球場にて行われます。

植樹祭並びに剪定奉仕

五月四日(土)午前十時より本殿において植樹祭を斎行いたしました。祭典終了後、境内梅林においてボーイスカウト札幌第一団による豊後梅の植樹並びに札幌造園協会、札幌造園技能士会による剪定奉仕が行われました。



植樹するスカウト

連合山車の数々

札幌まつりの山車は、明治十一年の初めての渡御に薄野の芸妓、常磐津連中などが車二台でくりだしたというのが始まりと言われています。その後札幌の街の発展と共に、明治二十九年には四基、三十五年には五基、大正四年に十基、大正七年にはついに十二基と全ての祭典区が山車を持っていました。山車の数や祭礼風景は時代とともに移ろいつつも、現在では九基の山車が渡御に華を添えています。



第一本府祭典区

やまとたけるのみこと
日本武尊



第三山鼻祭典区

しまよしたけ
島義勇



第四豊水祭典区

すきのおのみこと
須佐之男命



第六西創成祭典区

すきのおのみこと
素盞鳴尊



第七東祭典区

じんむてんのう
神武天皇



第八豊平祭典区

かとうきよまさ
加藤清正



第九東北祭典区

さるたひこのみこと
猿田彦命



第十六桑園祭典区

ももたろう
桃太郎



第二十琴似祭典区

なわながとし
名和長年

神饌田御田植祭

五月十六日(木)旭岳の麓に広がる東川町の北海道神宮神饌田にて、第四十六回神饌田御田植祭が斎行されました。早朝から北海道農業協同組合中央会・東川町農業協同組合青年部の方々により会場が設営され、午後一時より祭典が始まりました。田長を北海道農業協同組合中央会会長の樽井功氏、田長介助役を北海道農業協同組合中央会協同活動推進室室長の高橋信行氏、耕作長を東川町農業協同組合組合長の牧清隆氏がそれぞれ務め、祭儀が厳粛に執り行われました。

札幌からは奉仕団約二十名が参列し、豊作の祈りを込め、早乙女の田植えに合わせて田植え歌を歌いました。祭典終了後に一行は東神楽町の花神楽に宿泊し、翌日は滝川神社を正式参拝の後、ロイズカカオ&チョコレートファクトリーなどを見学して帰路に着きました。



祝詞奏上



早乙女による田植

五月人形展示

四月十九日(金)より五月二十六日(日)まで祈禱者控殿において、人形作家の山田裕嗣氏所蔵の江戸から平成までの貴重な五月人形と当別甲斐の会の吊るし人形が展示されました。端午の節句は、古来より宮中で行われていた厄除けの行事が武家、庶民へと広がった文化といわれています。もともと魔除けとして厚紙などで作った武者人形や兜などがやがて五月人形になったといわれており、人形文化・技術の発展に伴い種類も増えていきました。今回も応神天皇や、豊臣秀吉、桃太郎などを模したものが展示されました。



開拓判官島義勇百五十年顕彰祭

開拓判官島義勇顕彰会の主催により、島判官の命日にあたる四月十三日(土)午前十時より、北海道神宮参集殿において開拓判官島義勇百五十年顕彰祭が斎行されました。島判官は佐賀出身の偉人で、北海道では札幌の街づくりの礎を築き、当神宮の御祭神の御霊代を札幌まで奉じ、社地を定められた方で、秋田県では初代権令(知事)を務められた方でもあります。祭典には佐賀県知事をはじめ約百八十名が参列し、神前には佐賀、秋田、北海道の各地より様々な品が供えられました。また、祭典の中で北海道神宮奉賛吟詠講議長日村殉氏により島判官作の漢詩が吟じられました。

開拓判官島義勇百五十年顕彰の集い

本年は島判官が没してより百五十年の節目の年にあたることから、祭典の後に第二部として札幌グランドホテルにおいて午前十一時半より開拓判官島義勇百五十年顕彰の集いが開催されました。まずは佐賀県立佐賀城本丸歴史館学芸担当係長・学芸員藤井祐介先生より「島義勇が見た蝦夷地、そして日本」と題し、講演をいただきました。講演会の後の懇親会では鈴木直道北海道知事、山口祥義佐賀県知事、秋元克広札幌市長、坂井英隆佐賀市長からご来賓を代表してご挨拶をいただき、岩田圭剛北海道商工会議所連合会会頭の献杯をもって会が始まりました。懇親会ではソプラノ歌手の清水紫氏による顕彰歌が披露され、坂口祐樹佐賀県議会副議長の締めめの挨拶をもって終了しました。出席者には記念品として北海道神宮境内の島判官をモチーフにした絵馬や島判官の漢詩集などが渡されました。



顕彰祭



講演会



鈴木直道北海道知事



山口祥義佐賀県知事

島義勇没後百五十年 特別パネル展

四月十三日(土)から、佐賀県制作の「島義勇没後百五十年特別パネル展」が回廊にて開催されました。島判官の生涯や功績、蝦夷地調査時の旅路や島判官ゆかりの地など十枚のパネルで紹介されています。展示期間は令和六年十二月末までを予定しておりますが、展示場所は状況により変更する場合がございます。また、境内にある六花亭神宮茶屋店でも佐賀県との共同企画として、名物の焼き餅菓子「判官さま」を島義勇没後百五十年特別仕様の包み紙で提供しており、こちらも令和六年十二月まで提供の予定となっております。



令和六年

開拓判官島義勇百五十年顕彰祭奉納者一覧（敬称略・順不同）

●佐賀市市長坂井英隆 「佐賀市支所産 佐賀海苔」2箱、「特別純米 佐嘉」2本
●佐賀県上峰町町長武廣 勇平 「純米吟醸 50 鎮西八郎」2本
●佐賀市議会 議長 山口 弘展 「特別純米 佐嘉」2本
●佐賀市議会 議員 黒田 利人 「上撰 窓乃梅」2本
●佐賀市議会 議員 福井 章司 「上撰 窓乃梅」2本
●佐賀県農業協同組合 中央会 代表理事 会長 大島 信之 「さがびより」10kg×3箱、「清美オレンジ」1箱
●佐賀県農業協同組合 代表理事 組合長 楠 泰誠 「佐賀牛 ロースステーキ」200g×3枚、「嬉野茶ギフト」1箱
●佐賀商工会議所 会頭 陣内 芳博 「佐賀のり 有明の華」1箱、「特別純米 窓乃梅」1本
●佐賀県有明海漁業協同組合 代表理事 組合長 西久保 敏 「佐賀海苔」100袋
●矢野酒造株式会社 「竹の園 純米大吟醸 愛山」「肥前蔵心 純米吟醸」 「肥前蔵心 純米大吟醸 権右衛門」「肥前蔵心 特別純米」各1本
●有限会社 小笠原商店 「もち米蜜」「塩米蜜」各6本
●佐賀県神社庁 「佐賀豊菓」1箱
●陶山神社 宮司 宮田 胤臣 「清酒 宗政」2本
●札幌秋田県人会 「銀紋 飛良泉」3本
●秋田銀行札幌支店 支店長 三浦 雅人 「山廃 純米 雪の茅舎」「銀紋 飛良泉」各1本
●岩田地崎建設株式会社 代表取締役社長 岩田 圭剛 「特別純米酒 札幌村」1・8ℓ×3本、720ml×8本
●サッポロビール株式会社 北海道本社 代表 森本 光俊 「開拓使麦酒」330ml×12本
●札幌酒精工業株式会社 代表取締役社長 毛利 光一 「本格焼酎 喜多里」3本
●合同会社 豆屋とかち 岡女堂 本家 「北の判官豆」30箱

●氏家 和彦・珠実 「酒魂 純米吟醸 手取川」1本
●青木 伸剛 昆布
●伊藤組土建株式会社 代表取締役社長 大谷 正則 金一封
●野口 範子・桂子 金一封
●安藤 尚子 金一封
●株式会社 ジェビック 代表取締役 石丸 純子 金一封
●松本 恵子・治 金一封
●松尾建設株式会社 社長 松尾 哲吾 金一封
●むすび会 佐藤 順子 金一封
●北海道神宮奉賛吟詠講 金一封
●佐賀市 市長 坂井 英隆 金一封
●佐賀県議会 副議長 坂口 祐樹 金一封
●株式会社 六花亭 金一封
●岩田地崎建設株式会社 代表取締役社長 岩田 圭剛 金一封
●長沼 裕子 金一封
●弁護士 谷口 晃太郎 金一封
●衆議院議員 中村 裕之 金一封
●復興副大臣 衆議院議員 高木 宏壽 金一封

●北海道商工会議所連合会 会頭 岩田 圭剛 金一封
●佐賀市議会 議長 山口 弘展 金一封
●北海道議会 議員 千葉 真裕 金一封
●佐賀県農業協同組合 代表理事 組合長 楠 泰誠 金一封
●北海道国民健康保険団体連合会 顧問 石子 彰培 金一封
●日本郵便株式会社 北海道支社長 浄土 英二 金一封
●北海道議会 議員 渕上 綾子 金一封
●元北海道議会 議員 千葉 英守 金一封
●一般財団法人 北海道河川財団 会長 岡部 和憲 金一封
●内田 守孝 金一封
●谷 温子 金一封
●村松法律事務所 所長 弁護士 村松 弘康 金一封
●永浦 美恵 金一封
●佐賀県護国神社 万部鳥祭典委員会 横尾 宗敬 金一封
●北海道神宮境内 新生会 金一封
●株式会社 丸亀 金一封
●株式会社 ヤオシ 代表取締役 八尾師 絹子 金一封
●柴 元博 金一封
●木村 初江 金一封

●石井 明子 金一封
●松本 悠暉 金一封
●数内 理 金一封
●北海道食産業推進機構株式会社 金一封
●薬王寺 住職 田中 清元 金一封
●但野 洋子 金一封
●中山ミシン商事株式会社 中山 菊雄 金一封
●第九東北祭典区 代表委員長 若林 雅教 金一封
●俊祇講 金一封
●内田 紀子 金一封
●有限会社 エアタイプ 代表取締役 田中 宏明 金一封
●さざれ石会 金一封
●第三山鼻祭典区 代表委員長 荒 邦弘 金一封
●廣瀬 裕子 金一封
●濱田 剛一 金一封
●第四豊水祭典区 代表委員長 高柳 司 金一封
●第十八円山祭典区 代表委員長 三上 恒 金一封
●間島 宏美 金一封
●山本 晃靖 金一封
●神輿会 頓宮 金一封
●開拓神社祭典委員 阿部 俊則 金一封

●舟本 秀男 金一封
●第一本府祭典区 代表委員長 亀畑 倭宏 金一封
●戎谷 侑男 金一封
●道神會 金一封
●五稜星の会 金一封
●株式会社 J-R 北海道ソリューションズ 金一封
●白馬堂印刷株式会社 金一封
●北室 かず子 金一封
●安富 清一郎 金一封
●松野 哲也 金一封
●大竹 實 金一封
●中山久蔵を顕彰する会 金一封
●札幌村郷土記念館保存会 会長 山田 一仁 金一封
●船橋利実連合後援会 金一封
●佐賀市議会 議員 黒田 利人 金一封
●札幌市議会 議員 中川 賢一 金一封
●参議院議員 橋本 聖子 北海道事務所 所長 湯浅 敏明 金一封
●早志会 北海道 金一封
●石川 隆夫 金一封
●八丁 真理子 金一封
●宇津野 学 金一封

●森谷 忍 金一封
●宇津野 真理 金一封
●一日講社 山本 忠 金一封
●中野 茂康 金一封
●青衣講 佐藤 卓志 金一封
●大橋 浩美 金一封
●むすび会 副会長 渡辺 恵美子 金一封
●桜庭 誠二 金一封
●青衣講 金一封
●河野 貢・世津子 金一封
●杉目 敦子 金一封
●牧野 健仁 金一封
●畑地 佳子 金一封
●佐賀城本丸歴史館 古川 英文 金一封
●北の歴史塾 代表 森山 祐吾 金一封
●ほっかい道学を学ぶ会 会員 村山 隆一 金一封
●清野 順子 金一封
●三田 健滋 金一封
●堀 尚美 金一封

奉賛会だより

明治天皇御増祀六十年 奉賛会大祭

五月十二日(土)星野副会長をはじめ約三三〇名の会員が参列して奉賛会大祭が斎行されました。

祭典終了後は参集殿で総会が開催され令和五年度事業報告並びに収支決算、令和六年度事業計画案並びに収支予算案が満場一致で議決されました。

また、総会に引き続き本年が北海道神宮明治天皇御増祀六十年にあたることから、映画「明治天皇と日露大戦争」の上映を行いました。



総会

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和六年三月一日から令和六年四月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告いたします。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

(敬称略・順不同)

◆新入会員のご紹介

松嶋博之
蠣崎久美子
小野宏樹
高橋桃望子
小野佳代子
高橋政典
(株)グロウ
福田盛雄
前野七門
神本有輝
Chan Yan Wai
岩崎昌巳
田村亮輔

◆協賛者のご紹介

◇五千元
針谷毅
米田光秀
竹田博泰
◇その他
武田くみ
奥山幸樹

【令和五年度事業報告】

令和五年四月一日から
令和六年三月三十一日まで

一、会議

・理事会(書面) 令和五年四月
・総会 令和五年五月十三日(土)
・常任幹事会

令和六年三月二十九日(金)

二、北海道神宮奉賛会大祭の実施
令和五年五月十三日(土)、総会に先立ち、約三三〇名の参列者のもと斎行されました。

三、会員の動態

(令和六年三月三十一日現在)
・在籍会員数 二、二五六名
(前年度 二、三三五名)
・新入会員数 八十三名
(前年度 九十一名)

四、屋根銅板奉納事業

(令和六年三月三十一日現在)
・屋根銅板 三八一枚
(前年度四二〇枚)

五、施設整備事業

・奉納銅板を購入しました。

六、教化事業

・札幌まつり振興会に協賛しました。
・札幌まつりに渡御奉仕を募集し、

の敬仰・顕彰の事業を実施します。
六、会員関係事業

・入会時に、会員証を発行し、会員バッジ・門標を送呈します。
・新年の祈祷神札・本暦・絵馬・神道教化資料などを送呈します。
・二年に四回「奉賛会だより」を掲載した社報「北の志づめ」を送付します。
・会員優遇の「家内安全」の祈祷の昇殿参拝を勧奨します。

七、明治天皇御増祀六十年記念事業について

昭和三十九年十月五日、当時の札幌神社(現北海道神宮)に明治天皇が御増祀され本年は六十年目の節目の年を迎えるにあたり、北海道神宮の記念事業の一環として行われる養心館と研修会館の修繕工事に對し奉賛します。

渡御奉仕員募集

(六月六日締切り)

奉賛会会員を対象に例祭渡御奉仕の募集を行っております。詳細は事務局までお問合わせ下さい。

(ホームページ参照)



〈事務局〉〇一一・六一一・〇二六一
(九時〜十七時)

一五〇名程の参加者の奉仕に協力しました。

・ボーイスカウトガールスカウト育成に協賛しました。

・第三十六回「境内清掃奉仕」は十月二十九日(日)に行われ、六十二名の参加を頂きました。

七、会員関係事業

・入会時に会員証と会員バッジ及び門標を送呈しました。
・会員に家内安全の祈祷による昇殿参拝を勧奨しました。(年間約四〇〇件)

・新年の祈祷神札・本暦・絵馬・神道教化資料などを送付しました。

・年に四回「奉賛会だより」を掲載した社報「北の志づめ」を送付しました。

八、役員異動一覧

【退任】

●顧問(令和五年十二月)
北海道商工会議所連合会
名誉会頭 伊藤義郎
●副会長(令和五年五月)
北海道市長会
会長 山口 幸太郎
●副会長(令和五年六月)
北海道経済連合会
会長 真弓 明彦

●副会長(令和五年六月)

北海道農業協同組合中央会

会長 小野寺 俊幸

●理事(令和五年十月)

北海道電力株式会社

代表取締役社長 藤井 裕

●理事(令和五年十二月)

北海道神社庁総代会

会長 伊藤 義郎

●理事(令和六年三月)

北海道神社庁総代会

副会長 小笠原 孝

【就任】

●副会長(令和五年五月)

北海道市長会

会長 原田 裕

●副会長(令和五年六月)

北海道経済連合会

会長 藤井 裕

●副会長(令和五年六月)

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 樽井 功

●理事(令和五年十月)

北海道電力株式会社

代表取締役社長執行役員 齋藤 晋

(予定者を含む)